

国 語 科

国語科の目指す生徒像

- ・国語に対して関心をもち、場面に応じて適切に国語を使う生徒
- ・論理的に思考し、自分の意見を明確に相手に伝える生徒
- ・言語活動を通して交流し合い、向上しようとする意欲をもつ生徒

授業評価における課題

各学年に共通することとして、「発言したり質問したりしたか」に対する自己評価の低いことが挙げられる。発問の工夫をしたり、授業中、計画的に意見交流の場を設定したりして、意欲を喚起し、発言や質問する力を付けていくことが課題である。

学力調査における課題

学年により、「読む」「言語事項」「話す・聞く」ことに関する観点が全国平均を下回った。課題は学年により異なるが、読解、漢字、文法、語彙、聞き取りの基礎力、応用力を培い、定着させていくことが必要である。

言語活動における課題

- 自分の考えを論理的に構築する力を補うことが課題である。
- 言語の果たす役割に応じた教材を取り上げて、言語に関する能力をはぐくむことが必要である。

《本校で検討した言語活動例》

分かったことや考えたことについて説明や発表をしたり意見を述べたりする活動

改善策 ①

読書単元を設定し、文庫本一冊の読み取りや比べ読みを通して、登場人物の心情や情景描写を的確に読み取れる力を育成する。



改善策 ②

文法、漢字の反復学習や小テストを行い、言葉の力の向上を図る。



改善策 ③

授業の中に、スピーチや意見交流の場面を多く取り入れる。また、聞き取りテストを定期的実施して、「話す・聞く」の能力の向上を図る。



～ 研究の成果 ～

- ・読書単元を設定することで、生徒は文章に興味をもち、心情や情景をより深く読み取るようになった。
- ・文法や漢字の継続的な学習により、生徒の言葉や漢字の基礎力が高まった。
- ・スピーチや話し合い活動を計画的に行うことで、生徒は自信をもって発言することができるようになった。